

フィリピン 生産者団体がキャベンディッシュバナナの減少を報告

[FreshPlaza](#) 2025年4月16日

ミンダナオ協同組合連合会(Fedco)は、フィリピンのダバオ地方(ミンダナオ島南東部)のバナナ産業が直面している課題を指摘した。キャベンディッシュバナナの生産は減少しており、特に小規模生産者に影響を及ぼしている。Fedcoのアイレネオ・ダライオンCEOは2025年4月11日のビジネスフォーラムで、状況は「深刻」であり、小規模生産者は総ての生産物を失いかねないと述べた。

北ダバオ地域のカパロン、サントマス、アスンシオン、タグムの各地区及び南ダバオ地域の一部の地区では、多くのバナナ農園が放置され、非生産的な状態に陥っている。ダライオン氏は、キャベンディッシュバナナ生産量の10～15%の減少を見込んでおり、その原因として、物流・輸送コストの増加に加えて、「パナマ病」として知られるフザリウム萎凋病の継続的な脅威を挙げている。

生産コストが1ヘクタール当たり1万8千米ドルに近づく中、生産者は収益が不確実なため、栽培をためらっている。最適な条件下でも、生産者の収益は最大1万6千米ドルで、利益率は最小限である。担保や信頼できる返済計画のない小規模生産者への融資に銀行が消極的であることが、財政的制約を悪化させている。

米国ではキャベンディッシュバナナの需要が高いが、フィリピンの輸出業者は世界的な需要を満たすのに苦労している。この果実の賞味期限が40日であることも、迅速な市場アクセスをサポートするインフラが整っているエクアドル等の南米諸国と比べて輸出を困難にしている。

農業投入コストの上昇は、生産者のさらなる負担となっている。アンモニウム系除草剤の価格は5.40米ドルから12.60米ドルに急騰し、尿素肥料は現在、1袋(50kg)36米ドルで、5年前の2倍以上となっている。

Fedcoは、これらの問題に対処するためにミンダナオ開発庁(MinDA)と協議している。提案された解決策には、小規模生産者を1ヘクタール当たりの生産費用が約1,440米ドルのカルダババナナ(主に調理用)の生産に移行させることが含まれている。農業省(DA)は、信用支援の追加と作物の栄養と病害虫防除を強化するための研究の強化を提唱している。提案されたバナナ産業活性化ロードマップは、政府の継続的な支援を確保するための法制上の裏付けを目的としている。

フィリピン・バナナ生産者輸出業者協会(PBGEA)と植物産業局のデータは、日本と中国で市場シェアを失っていることを示している。この減少の原因は、病害虫の発生、輸出コストの上昇、及びベトナムやカンボジアなど他国との競争である。Fedco及びその他の関係者は、この重要な産業を支援するための政府の介入を強く求めている。

出典: [SunStar](#)